

港合同

昌一金属支部第54回定期大会 地域闘争の更なる前進へ！



我が支部は、八月三日、午前中で仕事を切り上げて、田中機械ホールに全組合員が移動して、午後一時半から、第五回定期大会を開催しました。

日、午前中で仕事を切り上げて、田中機械ホールに全組合員が移動して、午後一時半から、第五回定期大会を開催しました。

全国金属機械労働組合 港合同
大阪市港区南市岡3・6・26
TEL 06・6583・4858
FAX 06・6583・4600

今では、定時後や休日
に大会を行うところが多
い中で、我が支部では、
慣例とは言え、資本に定
期大会を昼間に行うこと
を認めさせている事は闘
いの成果として大きな事
です。

大会は、山本副委員長
の開会挨拶で始まり、前
半を今井議長の進行で進
められました。

冒頭、中崎委員長から
一年の闘いを振り返り、
支部の前進を確認し、港
合同の組織拡大こそ、我
が支部が全力で進めよう

と主催者挨拶がありまし
た。

大会には、お忙しい中、
多くの来賓の方にお越し
いただきました。

初めに、大阪市会のお
くの議員が公務で参加で
きないという事で、おく
の事務所の江川さんがメッ
セージ代読という形で参
加いただきました。

南大阪平和人権連帯会
議の山元議長からは「参
議院選挙で自民が圧勝し、
安倍政権がその本性を出
してきた。アベノミクス
は輸出企業は良いが生活
や賃金などは良くならな
い。解雇自由など労働法
制の緩和は大変なことに
なる。労働組合が今こそ

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！



力を持つこと。シリアをめぐってアメリカがミサイルを撃ち込むと言っている。イラクの時と同じで何十万人が殺される。また中東全体に影響を与えることになる。戦争を二度と繰り返してはならない。南大阪は反戦の闘いを営々と闘ってきた。改憲（自衛の権利・集団

的自衛権）を絶対に容認してはならない」と述べられました。

次に港地区平和人権連帯会議の中村議長からは、港地区の悲願であった南労会闘争の勝利は、官民連帯の力であると語られました。また港地区でも反戦の闘いを軸にしてきた立場からシリア情勢に触れ、大阪港が戦前、戦中に兵站基地としてあった歴史が述べられ、間違いを正していく運動を、と述べられました。

全日建連帯労組関西生コン支部の北浦執行委員からも、港合同が昨年相次ぐ重鎮の逝去という大変な中で南労会闘争を解

決させたことは全国に勇気を与えるものであるとして、関西生コン支部でも、二四年の真壁組闘争と二一年の千石生コン闘争が裁判・労働委員会で全部負けたが現場闘争で勝利した事が報告されました。また資本・権力からの激しい弾圧の中で産業別労働運動を力強く前進させていることが述べられました。

りを表し、年内完全決着を目指して控訴審闘争を闘い抜く決意が語られました。

そして港合同からは田中機械支部の玉置委員長からシリア情勢や安倍政権の改憲問題について警鐘が鳴らされ、大熊鉄工支部の原田委員長から五四回という支部の歴史と先人たちの闘いに触れ困難な局面を乗り越えていく

大阪市斎場解雇撤回闘争を闘う木澤団長から、三年間の闘い、十五回を数える公判を闘い抜いて五月十五日に大阪地裁で勝利判決を勝ちとったが、大阪市は新しい内容が無いのに控訴したことに怒りを受け、年内完全決着を目指して控訴審闘争を闘い抜く決意が述べられました。そして港合同からは田中機械支部の玉置委員長からシリア情勢や安倍政権の改憲問題について警鐘が鳴らされ、大熊鉄工支部の原田委員長から五四回という支部の歴史と先人たちの闘いに触れ困難な局面を乗り越えていく

られ、最後に港合同事務局として西村事務局次長から一年半を超えて継続している弁天町街宣に触れ周辺の労働者に手を差しのべられる港合同の組織力について労働相談の事例などで紹介し未組織労働者の組織化に向け奮闘しようと述べられました。

メッセージも大阪市の港湾局支部と港区役所の支部、元府労委労働者委員の要さん、国鉄臨職解雇撤回を闘う和田弘子さん、高槻医療福祉労働組合、動労千葉、労金大正北支店から寄せられました。

後半は中議長の進行で、

議案を執行部から提起して、この一年間の支部と港合同の闘い、特に橋下市政との闘いや公務員労働者との連帯、南労会闘争の勝利や国鉄闘争、反原発闘争などをしっかりと総括し、向こう一年間、我が支部が如何なる情勢の下で、どう闘っていくのかについて、活動方針で打ち出し、すべての議案が承認されました。

また、役員体制についても、執行部に変更はありませんが、大会議長と会計監査には新しい仲間の就任も確



認されました。港合同の地域闘争は、昨年の大和田事務局長と辻岡執行委員の相次ぐ逝去を乗り越えて南労会闘争を解決させました。そういう意味で港合同も大きな区切りをつけた一年でした。こういう時こそ、我が支部は長年にわたる闘いの歴史と教訓、日々実践をもって大きく一

歩前に踏み出す時だと思えます。真の敵に向かっどどのように反撃していくのか、どう闘っていくのか、という立場に立つて議論を深め、組織と運動の前進を図っていきま

す。闘いはここからです。大会の成功を踏まえて、この一年、執行部は支部の先頭に立ち、支部組合員のお互いの奮闘・努力をもって、困難な時代ではあります

昌一金属支部 K

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！